

PHOTO: 100万人のキャンドルナイト実行委員会



「100万人のキャンドルナイト」が「夏至の日、六月二十一日(土)の午後八時から午後十時の二時間、みんなが一斉に電気を消し、環境に賛同したNPO法人や企業、行政機関などが実行委員会を組織し、イベントの拠点づくりや、広報活動などに取り組むこととなつた。(詳細は同封のチラシを御覧下さい。)

一人ひとりの取組みが大きな輪となり、多くの人々が思いを共有できる時間が生まれる。家族と、友人と、恋人と：あなたも南信州の「スローナイト」に参加してみませんか。

提唱元の100万人のキャンドルナイト実行委員会のHPによれば、実行委員会では、無理して全ての電気を消すことを求めてはいない。みんなが電気を消すことで、地球温暖化の防止になるということを一番大切な目的としてもしていない。

普段の暮らしをしながらも、過剰な電気の明かりにまみれた日常から少しだけ自然の光で過ごしてみる…。

レジ袋は、消費者にとつて身近で便利なものであるため、多量に消費されている反面、再利用されることなく捨てられることが多く、日本では、一年間で約三百億枚がごみになっている。

環境省が、家庭ごみの排出抑制(リデュース)を図る契機とするため、買い物にマイバックを持参し、レジ袋の受取を辞退する普及啓発活動を行っている中、全国各地でレジ袋削減に向けた取組みが進んでいる。

県内においても、各地域で個別にマイバック持参運動やノーレジ袋運動などが進んでいるが、こ

の南信州地域においては、県内では先進的な取組みとして、消費者・事業者・行政機関が一体となり、地域全体でレジ袋削減に取り組もうと、下伊那地方事務所が中心となつて、協議会設立に向けた準備を進めている。

取組みの詳細については、協議会において決定することとなるが、地域全体で取り組むことによつて、消費者も事業者も今まで以上に取組み易くなり、レジ袋削減の動きが更に加速することが期待される。



## 100万人のキャンドルナイト'08「夏至」 in 南信州

### 六月二十一日(土) 夏至は、「電気を消して、スローな夜を」

一年中で最も日照時間が長い「夏至」の六月二十一日(土)、全国一斉に街の灯りや各家庭の照明を落す「100万人のキャンドルナイト」が実施される。

この南信州においても、昨年から取り組みが行われていたが、今年は更に盛り上げようと、NPO法人南信州おひさま進歩が発起人となつて「100万人のキャンドルナイト'08「夏至」 in 南信州実行委員会」が設立された。

このイベントは、NPO法人などで構成する「100万人のキャンドルナイト実行委員会」が「夏至の日、六月二十一日(土)の午後八時から午後十時の二時間、みんなが一斉に電気を消し、環境に賛同したNPO法人や企業、行政機関などが実行委員会を組織し、イベントの拠点づくりや、広報活動などに取り組むこととなつた。(詳細は同封のチラシを御覧下さい。)

そして、その時間をどのように過ごすのかは、一人ひとりのアイディア次第とし、ゆるやかな繋がりを求めている。

「夏至」と「冬至」に開催日を決めたのは、それぞれの国の社会事情や人間の都合で決められた

レジ袋削減へ新たな取組み始動  
南信州レジ袋削減推進協議会(仮称)設立準備中



H19 環境保全に関するポスター 高校生部 最優秀賞  
飯田風越高校 河合美香さん

「低炭素ライフスタイル実現のための十二項目」  
二団体が 牧野飯田市長に提言



「低炭素ライフスタイル実現のための十二項目」

- ①南信州グリーンファンド
- ②事業者・消費者・行政が連携したレジ袋の削減
- ③エコポイント制度によるCO2削減ライフスタイル実
- ④自転車利用拡大
- ⑤再生可能エネルギー対策
- ⑥CO2の削減と吸収を特色ある地域づくりに結びつ

地球温暖化の危機を厳しく認識し、防止活動に取り組んでいる飯伊地域の長野県地球温暖化防止活動推進員等の提案が、実を結んでほしいと思います。

金がない、前例がない、労力がない等々、否定から入るのではなく、金があれば知恵を出し、前例がなければ前進する勇氣をもち、まず、アクションを起こさなければ温暖化にブレーキをかけることも、結果を期待することもできません。

活動の活性化のために、推進員等の日常活動の中からの提案が尊重され、施策に反映されることを願っています。

### リレーメッセージ

#### できることから始めてみて

自然保護レンジャー  
三ツ口省二(根羽村)

私たち家族は、自然に恵まれた環境の良い所に住んでいると思っていたある日、散歩に出掛ける時、近くの車の待避所にカラスがいつぱいいるのでなぜかと近づいて見ると、カラスがゴミ袋を破り散らかし、ゴミ袋、缶等のゴミが散乱されておりました。

これはひどいと思い、翌日から一輪車でゴミ拾いを始めました。

自宅に持ち帰り分別しましたが、それがまた大変な仕事でした。孫達も手伝ってくれて少しは楽になりましたが、毎日のことで大変でした。ゴミゼロの日は一日もありませんでした。

ポイ捨ての袋を見ると、コンビニの袋が四割、缶やペットボトルが四割、その他が二割の割合でした。約半年続けましたが、さすがの私もギブアップしてしまいました。

我が家では、外出した時には必ずゴミを持ち帰り、分別して処分しています。家の中では、新聞、缶、ビニール袋、トレー等の分別を徹底してしています。

そのため、台所の大きなビニール袋が、家の中の風景を損ねております。お客様が来てびっくりされます。このビニール袋はビニール専用ですが、あまりの大きさにびっくりされるのです。

近年、食品のほとんどの包装にビニールが使用

されており、紙はほとんど使用されておりません。先ずは、ゴミを少なくすることが、当面の課題です。それには家族の協力が不可欠ですが、環境への理解を大人が進んで子供達に伝えていく努力を惜しまないことが大切です。

長野県地球温暖化防止活動推進員飯伊ブロックとNPO法人「いい大自然エネルギーネット山法師」の会員は、昨年九月から今年三月まで四回にわたり「地球温暖化防止セミナー」を開催し、地球温暖化防止活動について検討してきた。

環境モデル都市への立候補を機に、地球温暖化防止活動が南信州地域全体に広まって行くことを願って、四月二日、低炭素ライフスタイルを実現するための具体的施策を牧野飯田市長に提言した。

今村良子ブロックリーダーは、「私たちは、

といます。もう一度、我が家の周りを見直し、一度には出来ないかも知れませんが、根気よくゴミ拾いを続け、ゴミのない環境を築いていきたいと思っています。ポイ捨てがなくなる日まで頑張ってみたいと思います。

未来から預かっている貴重な地球環境を永く守っていくため、地域で今できること、これからやらなければならないことを、この一年学びあってきた。この提案を実現し、子どもたちの未来を守る

ため、この地域から多くの取り組みを全国に発信していかねければならない。」と挨拶して、提案書を市長に手渡した。

提案書を受けとった市長は、「今回、市民が中心となつて、低炭素型ライフスタイル推進プロジェクトを考えてくれたことを心強く思っている。環境改善活動は市民、行政、事業者が一体となつて、地域ぐるみで取り組まないと、効果はあがらない。地域ぐるみでの環境政策の立案、実践をアピールしていきたい。しっかりと検討し、提案が実を結ぶよう実践していきたい。」と提案の実現に意欲を示した。

### 編集後記

地球温暖化の危機を厳しく認識し、防止活動に取り組んでいる飯伊地域の長野県地球温暖化防止活動推進員等の提案が、実を結んでほしいと思います。

金がない、前例がない、労力がない等々、否定から入るのではなく、金があれば知恵を出し、前例がなければ前進する勇氣をもち、まず、アクションを起こさなければ温暖化にブレーキをかけることも、結果を期待することもできません。

活動の活性化のために、推進員等の日常活動の中からの提案が尊重され、施策に反映されることを願っています。

- ⑦深夜営業店舗の営業時間短縮協議会の設置
- ⑧住宅建設の助成
- ⑨白熱電球取替え運動
- ⑩省エネ農業の推進
- ⑪里山・森林資源を活用した都市との交流
- ⑫特色ある環境教育



